

再生医療を用いた
新しい不妊治療

2020年10月よりスタート

多血小板血漿療法【PRP療法】のご案内

子宮内膜は受精卵が着床するベッドのような役割を果たしています。さまざまな理由で子宮内膜が薄くなってしまうと、着床が困難になります。このような方に近年、再生医療のひとつ**多血小板血漿療法【PRP療法】**による効果が報告されています。

当院は厚生労働省の認可を受け、2020年10月より**子宮内膜に対する多血小板血漿を用いた不妊治療【PRP療法】**を開始しました。

多血小板血漿療法【PRP療法】について

多血小板血漿 (platelet-rich plasma, PRP) 療法は、患者さん自身の血液から抽出した高濃度の血小板を子宮内に注入する方法です。

血小板は、細胞の成長をうながす物質や免疫にかかわる物質を含むため、PRP療法により子宮内膜が厚くなり、受精卵が着床しやすくなると考えられています。

対象者

当院受診中の患者さん（子宮内膜が薄い方、体外受精反復不成功の方）

治療方法

- 月経周期の**10～11日目**、**12～13日目**に子宮内膜厚を経腔エコーで測定し、PRPを注入します。
- PRPは当日、患者さん本人から採取した血液をもとに精製します。
- 治療は血液の採取からPRPの注入まで1日で終わることができます。
- 1周期で原則2回の注入を行いますが、患者さんの希望により2回目は省略が可能です。

費用

本治療は保険適用外のため、自費診療となります。

- 2回1セット：165,000円（税込）

【PRP療法】について詳しくは
担当医またはカウンセラーに
お尋ねください。

八千代病院 不妊センター

当院は、厚生労働省による再生医療の認可施設です。